WASON
HQ
1104
J74+
Feb. 1894
no. 367

明治十八年初刊

女學雜誌

毎週土曜日發兌

第三百六十七號

要目

吁、かの瘋癲者　よし治
夢のあと（韻文）　白心子
押川方義君の母　川合信水
友を懷ふ　しのぶ
海底電信　若松賤子
憂鬱のトルストイ　隨感子
ペスタロヂと女性　鷗村

明治二十七年二月十七日發兌

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.
(JOGAKU ZASSHI.)

第三百六十七號目録

社說
円、彼の瘋癲者(中)
ドロセア、ソンデヂックス女史
言行錄を讀む
四 新教師
五 大に世に訴ふ
六 金石可し透、山河可し動
七 寄附法案國會に提出せらる

隨感
その十字架
誤解せられし時
懷疑
憂鬱のトルストイ
永生
死

兒籃
海底電信の話(若松しづ子)

史傳
ベスタロッヂと女性(鷗村)

逸事
日本第一等の養蠶家は婦人なり
女學生家を成して名あり

女學
ウイラードが受けたる教育並びにその施せし女子教育、

文藝
同訓異義(四)
女學雜誌の評

雜錄
押川方義君の母
橋本只子君行狀(佐伯陽一)
吊詞(川合信水)
米國人愛讀の小說

つれ〳〵草
友を懷ふ(六合學人)
夢のあと(上)(白心子)

片々
時文女學
大奥の女中
賢母傳
東京市中貧民の生活
明治烈女
いま〳〵しきは

時報
華族女學校幼稚園規則○同設置の理由○女子高等師範學校卒業生採用に就て○子爵夫人母堂の武術○賢母傳

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌
第三百六十七號
明治二十七年二月十七日發兌

社説

吁、彼の瘋癲者（中）

ドロセア、リンデ、ヂックス女史言行錄と讀む

四　新教師

ヂックス女史、貧賤に心を鍛え、困苦に途を啓らき、年少かくして早く獨立自活の生計を爲し、毫も他に牽連委賴するとなし。而して、凡そ其手を着くる所に斬新奇抜の生面あり、たゞ〳〵習慣故法に則とりて、人の足跡を履まんとは、其の滿足する所にあらざりき。左れば、幼なき子女若干を集めて之に教授するときも、學科を尋常の仕來りに限らず、別に文書音信の一方を設けて、日々、書生に手紙一通づゝを認めさせ、其日の感想又は疑問を記るさせて、而して自から一々之に答書するとなしけり。此方、書生が爲めに實際の識力を養なひ、學問の空粗に流るる通弊を防ぎ、尙且つ師弟間の情誼を極めて濃厚となしたりき。一例を擧れば、其爲す所ろ大率ね如此くなりき。

五　大に世に訴ふ

ヂックス女史は、早くよりして年齡に過ぎたる經驗を爲し、また感情激甚なるにより、人並々ならぬ喜憂の極度に際會せしとも數々なりしが、チャンニング氏の感化次第に浸潤し、多病の教訓追々に行渡れると共に、人に憤ふり、世に平ならぬ情感も漸やくにして趣きを變へ、折々痛悔に泣き反省に切まりて、遂に豁然として悟る所ろありけり。

かくて、新たなる眼をあげて世上をながめ、つく〴〵と世の現態を察すれば、實にあはれむべきもの最と多し。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

取分け、女史が感情を刺激したるは、當時の瘋癲者取扱方の何如にも慘酷なることにてありき。其比世人尙ほ未開にして、瘋癲を悪鬼に憑れたるものとし、之を一種の天刑病と見做して、苦罰を當然の結果の如く思惟せしかば、其の取扱ひの慘酷にして不道なりしこと言ふ迄もなし。

ヂックス女史、太たく慨歎し、一としほ廣ろく且つ精やかに所々の取扱風を觀察するに何れも類を同じふし、均しく心苦しき限りなり。此に於てか、其弊風を改革し、このあわれむべき病者を救助するの使命、天より下れりと確信し、則ち慨然として一身を之に任せんとは決しぬ。

時は一千八百四十一年、女史が三十八歳の秋なり、各州の瘋癲者取扱方が如何にも慘酷なることを天下に訴たへんとて、其實況を在のまゝに記述し、白日公衆に曝露して驚ろくべき大恐慌を引起したり。世人愕然として瞠若し、實際かゝることのあらんやと奇しみ、中には嘲けつて之を言ひ消さんとしたるものもありしが、事實は眞理の形なり、何ものも敵すべからず、仁人君子次第に之に感動し、一世の輿論、潮の寄するか如く、大風の號ぶが如くに、動き出し、騒ぎ來れり。

當時、世に訴たへたる告白書の文中に、左の一節あり、

救助院へ瘋癲者を入るゝ弊害の恐るべき實例一つを擧げんに、ウオルセスターにて數年救助院に入りたる年若き婦人あり、元は由緒ある家柄の人なるよし今は心狂ひて情けなき姿なれば、此處には入られしなり。妾が此院を見舞へるたび〳〵、彼女を看るに、始終沈鬱して捗々しからず、大かた無言にてシク〳〵と泣き居たるが、其后數週にして彼女を見れば、こは思ひきや、彼女の腕に一個の嬰兒は抱かれたり、父は何ものぞ、母も亦た自から知らず、彼女は無意識に孕み、無雜作に之を產みたるなり。彼女は、母として之を育つることを知らず、半ば迷惑げに、又半ば無頓着に、之をかき抱き、たゞ沈默として坐するとは云へ、此の慘澹たる光影は、如何に能辯を以て「憫れむべき女性の救ふべきこと」を說敎するか。

六　金石可㆑透、山河可㆑動

既に意を決したり、金石も透すべく、山河も動かすべし。彼女は、尤とも熱烈に其使命を果さんとせり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

游說に忙はしく、觀察に暇まなく、千里獨行して、或時は、深夜ひとり巨林大野の中を過ぐることもありき。たまく追はぎありて、路を遮ぎり、之にピストルを擬せんとすれば、女史、ゆるやかに看て、御身何ものを求むるやと問へり。言ふまでもなし、汝が路用の金、汝が携帶する品、一切を吾に渡せと嚇す。女史、悠然として曰く、今ま所有する所の金錢は甚はだ少なし、左れど、御身もし之を必要すべきことあらば、固より與ふべし、たゞ妾は、某の所ろの瘋癲者無慈悲の取扱ひを受くと聞きて速やかに之を吟味せんとて趣むくもの也、此の些少の金も尙ほ入用の事あり、左れど御身が入用の筋更に一層切迫の事なりとせば、固より與ふべし、と。盜人、こゝに至りて見るく顏色變じ、戰慄、地に平伏して赦を乞ひしことあり。

彼女が風采に神韻あり、其言語に聖なる劒あり、一と度び之に接して其燃ゆる如く燒くが如き辨說を聞くものは、恍として神消え、何ものをも捐てんとするの心起れりとぞ。之れ一には女史が天禀特得の伎倆ありしに由るとは雖ども、多くは其の赤誠迸ばしり發して、靈光人の本心に透射するが爲めなり。こゝを以て、女史が所々の瘋癲院を改良せんとするに當りては、資力に欠くることを覺えず、身素と一錢の貯はえなしとは雖ども、其の熱心はよく人を動かして、乍ち數万金の寄附を爲さしめたり。

夫れ、寄附金を募集すること、太はだ難し。彼の世辭を巧みにし、禮容を美くしくし、只管ら機嫌を丸るめて富人の寄捨を要むるの徒は乞食なり、自己先づ一身を献じ、毫頭名利の慮縈なく、全力を盡して率先任負したる天の聖なる事業は、吾が私しの事業にはあらざる也。吾は吾があらゆるものを義捐したり、富者は則はち其金を義捐すべし、これ其人の爲めの榮幸なりと。凡そ、此般の覺悟なきものは、堂々寄附金を募集せんことかたし。

ヂックス女史が、瘋癲院改良の爲めに、寄附金を募集するの一例を擧んか。死后四百万弗を寄附し、一面談の后、直ちに四万弗を寄附したる、サイラス、パットラーは、ロード、アイランド州の富人なり。ヂックス女史、素より之を知らず、宣敎師ホール氏の案内を請ひて、其が門に到り、獨り入つて直ちに主人パットラー氏と面會せり。

初對面の挨拶了り、四方山の世話半ばにして、一種の靈氣次第に滿ち、全身の氣力正に熟し「今や可也」の聖機到來せしとき、チックス女史やをら立ち上り、

　パットラー君

と呼びかけ、徐むろに言く。

　今ま妾はが言はんとする所を聞き玉へ、君が周圍にて苦痛しつゝある君が同胞の事を語らん、此の苦痛は、君が容易に取除き玉ふことを得る所ろ也、

と。女史は、之より熱誠を漲らせて州の瘋癲院の現狀を陳じ、其の慘憺たる光景を目睹るが如くに語き、最后毅然として曰く、

　以上述べ了りて、妾は妾の義務を盡したり。此景況を君に告げて君に訴ふるは妾の義務なりき。而して、此より后の事は君の義務に屬す。君の隨意に爲し玉へ。

と。女史は實に其義務を果したり。故に直ちに辭し去らんとせしに、パットラー氏は、袂をひかえて問へり、

　而して、吾に何を爲せよと敎へ玉ふ乎。

四万弗を寄附し玉ふべし。

　可也、寄附いたさん。

此に於て四万弗の寄附あり。其の死后更に四百万弗の寄附ありき。

七　寄附法案國會に提出せらる

女史は、其の使命を帶びて、州より州に旅行し、合衆聯邦を踏み破りて、遂に全躰に相涉るべき瘋癲者救助の法案を立てたり。

即はち、合衆國内未殖民の荒地若干を、瘋癲者救助の爲めに取置き、將來移住民ありて土地を拂下ぐるに隨ひ、漸次に入金を得て次第に瘋癲院設立及び維持の費用に宛てんとするの案なり。

女史は、單身、此法案を提げ、合衆國上院下院の議員をして之に賛同せしめ、首尾よく一致可決せしめんとの念願を起し、一千八百四十六年六月、五百万エークル寄附法案なるものをして、先づ上院議場に出現せしめんとはなしぬ。

果然、法案として出でたり。特別委員會に附せられたり。女史は、殊更に優遇をうけ、カピトル、ライブラリーの一室を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

特貸せられ、日々此に詰切りて各議員に勸說したり。議員中賛成者の數、次第に增加し。實際一婦人が提出したる古今類なきの法案でも、難なく通過すべき見込すらありしに、惜しむべし、期に到り、少數を以て否決されたり。

左れど、女史は、氣力を落さず、翌々年は即はち一千八百五十年に至り、更めて一千二百二十二万五千エーカー寄附法案をして提出せらるることに盡力せり（此內、一千エークルを瘋癲者に、殘りを盲、聾、啞、の爲めにとせり）。

此時は、上院に於て可決し、下院に於て否決せしに、女史は尙ほ屈することなく、后ち四年、即はち一千八百五十四年に至り、再び同前の法案の提出せらるることに盡力せり。

法案は、難なく特別委員會に附せられたり。女史は、例の如く、カピトル、ライブラリーに詰切ることの特許を得たり。常に時、日々、朝四時五時の交起き出で、一時間を聖別して、熱誠の祈禱を凝らし、ウエスレー、フエーバー、ホイッチア、ポーリングの聖歌を朗吟し、了つて第八時に至る迄で、國內二十州に散在する所々の瘋癲院に送信し、答信し、正十時、ライブラリーに出席して、各議員に面說す、反對論は鄭寧に駁倒し、所信は仔細に解說し、鬱勃たる赤誠を傾盡して、一議員、一議員に熱說し、則はち、一議員、一議員の同意を得たり。時は、七月八月の酷暑たり。身はマラリア熱にて侵されたる如き弱躰なり。狹きライブラリーの內、九十五度乃至一百度の烈熱を事ともせず、一身活火、炎々として四方を燒き、遂に、上院下院に大多數の同志者を起したり。

此に至りては、最早や採決の數を問ふことを要せず。下院に於ては、八十四に對する九十八。上院に於ては、十二に對する二十五の大多數を以て、彼の一千二百二十二万五千エークル寄附法案は可決せられたり。

敵も味方も歡呼したり。祝電は四方よりひゞき、賀狀は、八方より飛べり。或人は、狂熱して、女史を抱きて躍れり。實に冷々たる政治界の爲めにも譽れある哉。彼は、瘋癲者、盲人、聾者、及び啞人の爲めに、一千數百万エークルの土地を仁旋したる也。

多病なる女史は、多年の激戰につかれ、最后の大勝に氣折れて、今やまた固有の肺疾と熱病とに襲はれたり。されど、彼の光榮ある大勝利を想ふときは、主將、金冠を拜受して而し

て后ち靜かに休養すると亦可ならずや。

然るに驚ろくべし、時の大統領ピーアスは、上院下院が如此き大多數を以て可決したる法案に同意せず、冷然之を擯斥したり。あゝ、單に一個人の意思を以て、彼の春の如き榮福は忽然消滅することとなれり。寄附法案は無効となれり。

隨感

○その十字架

人ごとに一つの癖はあり。癖のかげに、病はひそむ。輕重難易は、其形を以て較ぶべからず、其量を以て比すべからず。當に、各箇銘々に於ける感觸の度合ひを以て相はかるべき也豪膽なる人は、小細の人を見て、其のくよ／＼とするを冷笑し、左程の苦勞は抑／＼何んかあらんと嘲ける。左れど、此の豪膽者の勞苦も亦た知れたるものぞ。更に一層の高きより看下せば、蓋し小兒の泣言たらん耳。此故に、吾の苦痛を他に比較して、他は輕く、吾は重しと思はん時こそ、切に戒しむべきの折なれ。人は、銘々に病あり、痛苦の感觸其人に於て最上なり。ポウロにポウロの刺あり、ヨハネにヨハネの苦痛あり。吾が陷いるまじき誘惑に人の陷いりたりとも、吾はた何の誇るべきことかあらん。誘惑は、各箇特別の稟質に對して生ず、其形を以て輕重すべからざる也。經に曰く、

もしわれに從はんと欲ふものは、己に克て日々その十字架を負ふて吾に從へ。

銘々各人に、「その十字架」なるものあり。その十字架の形は、各の別なり。同胞よ、心して、人の知らぬ深裏に、わが十字架は何なりやと問ふべし。勇者は、怯者と異なれども、其の勇あるによりて別に十字架あり。君子は、小人と異なれども其の雅量あるによりて別に十字架あり。嗚呼、その十字架は、即はち其人固有の十字架なり、之を負ふて尤とも苦しく、又之を負ふと尤とも聖なり。吾等發揮して之を負ふにあらずば、即はち、主の弟子たること能はざる也。

○誤解せられし時

人に賞め讃えらるる時は、支拂を爲したらんが如し、最早や

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

事了りし也。人に誤解せらるる時は、貯金を爲したらんが如し、他日收入す可きものある也。

○懷　疑

近ごろ文學者の中に、吾は懷疑者なりと自ら名のる人ありけり。われ、つら〳〵其人となりを見るに、血色よろしく、言語流暢にして、氣分なか〳〵に盛んなり。又、其平常を聞けば、毀譽褒貶に執着し、金錢を欲すること人後に立たず、飮食も隨分多量にて、交遊知人も少なからぬよし也。世にかゝる人をも懷疑者と云はゞ、大方の人は皆なスケプチックなるべし。かゝる人は、一と度びにても自殺の決心に似たるほどの決心をせしとありや。光明を睨らみて暗黑と見たる憂鬱はありしや。万籟を聞かずして溪流の音に耳を聳だてたる經驗はありや。覺束なき懷疑者にこそ。

○憂鬱のトルストイ

懷疑者に同情は表すれども、固より之を稱揚すべき愚はなさず。同情を表すると、稱揚推薦するとは異なる。憂鬱蒼顏の人に情けはあれど、古へを思ふて涙禁ずる能はず、切に其の光明を見んとを祈る。たゞ彼の幼稚なる樂天家、未だ曾て世の苦楚を嘗めずして、風波の表に錦繡をみとめ、人生の極致は之なりと斷ず。トルストイに今日あるは、其の一と度び懷疑憂鬱に沈みたるの結果なりとす。必らずしも常に暗黑を必要すと言わずとも、亦たみだりに暗黑を非るべからず。

○永　生

友を熱愛して而して友に生別し死別するも尙ほ超然たり。事業に熱執して而して事業敗れ損失山の如くなるも尙ほ超然たり。赤誠國に許し一身革命に献じて、而して博愛の氣ひろく、天地宇宙と一化するの念ひ超然たり。意中の人の肉骸を埋め、愛子の遺躰を腐らせ、念々心緒麻の如く亂れて、而して一點超然たる餘裕あり。喩えば、不倒翁の倒れて亦起き、不斷一箇の中心を失なはざるか如き覺悟は、如何にして之を得べき。大方の君子各の自得の工夫あるべし。敎內同信の兄妹、それそれの經驗あらん。余の如きは、實に「永生」「靈魂の不滅」を確信するによりて、一思亂れざるを得る也。余をして懷

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

獄に陷いらしめしは、「死」の一字なりき。余を救ひて光明界に入らしめしものは、「限りなき生命」の敎これ也。

○死

來世を信ぜず、永遠の生命を認めざる人よ。竊そかに「死」の一字を念へ。死、万事を休する乎、而して、死は、何の時、來るべき乎。死は、愛情、交友、眞理研究、洪大の經綸等の意識を消滅せしむべき乎。而して、此死は、何の時、來るべき乎。わが足下の土は、幾億万の人の骸骨を埋む、幾億万の人、既に全く無き乎。わが失せし父、わが先だてし友は、天地宇宙の間に全然跡方なき乎。親子、夫婦、兄弟の愛情は、肉を存する交流の泡沫にして、流れ止み水去つて則ち消ゆべき乎。吁、死の問題は、大問題にあらずや。此の最后の問ひ未だ明らかならずして而して何を念ふて能く熱狂するや。火を知らずして飛ぶ所ろの細虫は、必らずしも勇あるにあらざるべし。

兒籃

海底電信の話

若松しづ子

いつも〳〵同じ樣な息子や娘の話しでは、皆さまも御退屈ですから、今日は少々品を變へて、人間外のお話しを致しませう。

どふです皆樣、此節、「電」といふ字の流行いたし升とは、電信といふことは可なり以前から耳馴れて居升が、先頃から電燈、續いて電話、其他電氣鐵道、又いふも忌は敷とですが、電氣死刑といふものもあり。米國博覽會では先頃、見物人に電氣でお料理したものを食べさせたといふ珍らし敷話さへ御座り升よ。何にいたせ、電氣といふものほど重寶な品は滅多にないのですよ。日本で槇の竈をよして、電氣で御飯を炊たりおみおつけを、煮るといふ樣にはチヨツクラなり升まいが、東京横濱に線を引張つた柱の植へ升たとは、實に非常なものですナ、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

中にも電話線の針金のきら〳〵と旭に輝く處を見升たら、天つ乙女が随分手琴と間違つて、掻鳴らすとも無いと申されまいと思升よ。いかゞでせうの……

冗談は扨とし升て、皆さんは學校へ入つしやるんですから、海の底に電信線のあるとは疾に御承知、さうして、最初の海底電線は殆んど三十年前、米國と歐洲大陸を結びつけたもの即ち、大西洋中に敷いたものといふとも、御承知でせう。

アイルランドの西南海岸に、ヴァレンシヤといふ小さな港が有升。此港は、地圖で御覧の通り、大西洋に面して居り升が、之に對して、向ふの岸なる最近の點は、ソレ〳〵、コロンバスが米國發見前、最初に上陸したといふ、ニユー、ファウンドランドといふ島にある、誠に風よけの好い小港です。其間の海は、世界第一の荒海で、暴風、颶風に騒ぎ立ち、土曜中の平穏な期節にさへ、穏やかなとは稀だそうです。其間の距離は二千英里、最も深い場處は三英里、即ち、日本の一里餘もあると申升。

米人だそうです、此荒海に電線を敷ふと始めて計畫した人は。愚な人々は其噂を聞いて、冷笑いたし升た、どふして二千英里もある細金針をユラ〳〵した船の上から海の底へ下ろすとが出來よふ、針金の重量丈でも切れてしまふ、それでなくとも、海獸の攻撃や、潮流の捻ち切りでどふして防くのだ。銅線はどの様に堅固にゴムで保護した處で、針で突いたほどの穴が出來た最後、全躰の針金は無用に歸してしまわふと、矢張り、ワットや、スチーヴェンソンのことを噂したと同様、此發企者に冷評を加へ升た。併し、それにも關らず、ワットは蒸氣機械の發明者となり、スチーヴェンソンは機關車の發明者となり、フィールドは大英國と合衆國との間を繋ぐに電線を以ていたし升た。

手短に此話しを致し升と、フィールドが此大事業を企升たのは、千八百五十年頃で、同氏は早速其ことを知己に謀り、此事業に於て卒先なし一の會社を組立升た。

元より莫大の資力を要する事業でした。第一にせねばならぬとは海底を測量することでした。深さを量ることでした、其次に海底に如何なる動植物が寄棲して居ると云ことを慥めなければなりませんでした。段々との綿密な探撿に依て、兩港間、一の高原があることを發見し、これ幸と、電線高原と海に名づけ升た。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

それより、二三艘の船に艤いたし升て、これに數千哩の電線を搭載して、夫を海底に敷とにかゝり升た。然るに、かぼそき、怒濤の暴力に比してはかぼそき銅線は、脆くも中絶し升て、釣上るとさへ出來ませんかつた。扨二度目の試驗を致升た、併しそれさへ失敗でした。大膽な人は、困難に打勝との出來るもので、發企者も、資本家も斷じて成功の決心をして居り升た。併し事の成就は中々遲く、一度航海する毎に、幾十万といふ金子を消費するのですから、誰もかれもめざか敗とでしたらう。大西電線組が三回目まで船を出し、三回目も又々失敗で有つた時は、俗人は、これこそ最後の大失敗と鑑定を下し升た。然るに發企者の面々は彌勇づき升た。失敗の度毎、自分等の組立か機械に不完全の箇處を見つけ升て、其度毎、丁寧に、その修正をいたし升た。かくして、俗人には成功よりいよいよ遠ざかる樣に見えつゝ、實際は一歩々々と目的に達し升た。過去の經驗の光に輝されて、四回目の出發を準備いたし升た。近年での大きい船といふ評判の、グレート、イースタン號といふを其用に擇び升たが、これは長サ六百九五呎幅八五呎で、二万二千噸積でした。二千三百七四哩の銅線を三ッに分ち升て、船中に備へたる三ッの鐵の箱に卷收め升た。長い船旅の用意には食物丈でも驚く可きほどでした。先づ牛肉二万斤、鷄、五百羽、生羊、百十四頭、牡牛八頭、乳牛一頭、氷、八十噸でした。

ヴァレンシャ湊を出發し升たのは、一千八百六十六年、七月某日でした。電線を敷くといふとは、一寸考へて見ると、さて面倒のとも思はれませんけれど、其實非常に困難なとです。鐵箱から繰出す傍には、二十の人手を要し升た。其人々は毎々纐巾の衣を着し、穿つた靴は釘を用ゐぬものでした。線は幾多の鐵輪を廻りくて、甲板なる一ッの機械室に入り、こゝに細密な檢査機が据つけて有つて、ゴムに細微の破損をも報じる仕掛になつて居り升た。船は一時間、五哩の割に進行致し升て、電線の繰出しも極く滑らかに運び升た。天氣快麗で、一同笑顏を造つて居り升た。四日目に、海底二百十ファソムより俄に二千〇五十ファソムの深サに變ずる處へ達し升た。船目がこゝを危んだ譯は、最初の航海に、脆くも電線をこゝに切らして、永久其端を失つた故でした。併し幸にして、無事に此難處を越へ升た。七月十七日の夕まで何事もなく過升

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

たが、此時、機械室よりの非常合圖に船員一同大に肝を冷し升た。併しそれも電線のもつれから起つたとで、數時間の後はまた滯りなく進行するとが出來升た。グレート、イースタン號が遂に其大望を達し升たのは、同月廿七日で、十五日間の船旅の後でした。いよ〱合衆國の海岸なる一端に其電線を結びつけられて兩大洲間の飛信が以後自在といふとの知れ渡つた時、兩國人民の悅は非常なとでした。

只今では兩大洲間に電線が四線も有つて、電信料は、始めから比らべると廿五割も引下つて居るさうです。道理こそ、紐育の新聞は倫敦の新聞に負ないほど歐洲の雜報を揭げ升た。

カナリヤの不平

カナリヤ。おねづさん〱どういふもんでせう、あたしは別段のとはない、いつもの調子で囀つて居ると、丁度お醫者の奧さんが來て入つしやる拍子だつたせいか、突然「此鳥のおしやべりが」といつて、奧さんがあたしをこゝへ(物置)持つて來なすつたが、さう色〱物數をいつた譯じやないがネ。

古ねづみ。イヤ、そこだて、腹ん中に人に聞す可きほどの貯へがなくて八釜しくいふが、おしやべりといふものだよ。

史傳

ペスタロヂと女性

其三

鷗村

ペスタロヂが幼時一家の經濟は前に記せるが如く甚だ困難なりしとはいへ、其小兒等は時々數片の金を懷にするとなかりし日は非ざりき。或日ペスタロヂまた母より數個の金を獲て戶外にありたる際、兼てより其目を引ける隣家の菓子店なる數多の好物は又彼が心を動かし、遂に其店に入りて之を購はんとせしに、爰に此店を守れる其年齡ペスタロヂに長ずると七歲なる一少女あり。入り來る小客人を見るや其求むるものを賣り與へんとせずして、却て彼を戒め其金を浪費するとなくて有益なる費途の爲に貯へよと告げたり。この怜悧なる少女は其名をアンナ、シユルテスと呼び後年に至りて曾て菓子を賣らんとを拒みたりし小客人と奇緣を結びてペスタロヂ夫人となりぬ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

アンナ、シュルテスの家は素より一個の菓子商に過ぎざれども、其の父は當時數多の學者詞客騷人に交際廣く文學技藝に長じたる人なりしかば、隨つてアンナの良好なる教育を受け慧敏にして音樂の道に長け詠詩の技に卓れたり。其記せる處の日記中には見るべき好文字あり。又老年にいたりて、ウヲルヅウヲルスの詩『我等は七人の兄弟なり』といへるを摸倣して作りたる一詩今日猶存せりといふ。

ペスタロヂ身幹矮小容貌極めて醜惡、痘痕面に滿ち、頭髮亂れて粗く、鬚髯貧しくして雅趣なし。且身躰常に虛弱にして加ふるに其放心なる、時としては衣服の一部を着ることを忘れて知らず。首に頸飾なく、足には不恰好なる大靴を穿ちて、全く容姿態度に掛念せず。爲に屢々乞食と誤認せられたることさへありて、一點と雖も世の女子の媚を惹くべき容色なかりしかど、其醜貌の裡に罩まれたる慈悲寛大の溫情の溢れて黒き大の眼に耀けるを認めたるはかの秀才アンナ、シュルテスなりき。アンナは容色に眩せらるゝ世の處女の流に非らず。彼女がこの醜男子と偕老の契を結ぶに至りしは全く彼が心の美に眷戀してやむ能はざりしか爲にして、遂には父母の快き許諾を得ざりにしも關らず、僅に一臺のピヤノと數點の私物とを嫁資としてペスタロヂに歸ぎ、貞操淑德數十年の極貧の境遇をも呟かざりき。

既に二人は共に幼少なる頃よりして朋友の交際ありしとはいへ、實に二人にして百年の伉儷の契を結ばしめたるものは二人の益友ブルンチュリーの死去に在り。彼の死後二人は屢々相會して亡友の事蹟を追懷して共に悲歎を分つの際、双方互の性質品性を熟知したるより許嫁の約を整へて二年の後合巹の祝を擧たり。時にペスタロヂは二十三歲、アンナは三十歲なりき。

アンナ、ペスタロヂの妻となりてより其死に至る迄四十六年の間、或はノイホッフに、ブルフドルフに、イベルヅンに能く其夫を助け、貧窮疾苦に處して毫も怨訴せず。夫をして失望落膽せしむることなかりき。ペスタロヂは人情の教育を世に布かんが爲に熱心其身を焦し、家を破りて顧ざりしなれど、夫人は其敗餘の家、貧困なる爐邊をして常に平和音樂の滾々として涌出する處たらしめ又夫が生徒を見るを己が生徒の如く小兒の如くなりしより、かのペスタロヂを呼びて『父ペスタロ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

チ』といひたる生徒等はまた正に夫人を『母ペスタロチ』と呼びしならん。

時將にイベルヅンの學舍衰頽せんとする時、四十有餘年の此世の契破れて七十六歳の老妻は跡に六十九歳の老父を殘して白雲の郷に天父の許にかへりたれば、ペスタロチ悲痛措くと能はず。其葬儀の節亡妻の遺骸に對いて恰も生けるにむかふが如く、

予等二人は周圍の人々より避け嫌はれ、賤められ、貧困疾苦は予等を屈撓せしめ、乾ける麵包をば落つる涙に濕して飢を凌ぎたり。かゝる堪へ難き試みの日に當りて汝と予とをして堪へしのばしめたるものは何ぞや。

といひつゝ遺骸の上に手にせる一卷の聖書を載せて、

此泉よりして汝と予とは勇氣と力と平和を汲みたり。

といひつ、涕零雨下の間に告別したり。此時有名なる詩人クロップストックは夫人の爲に『基督教徒希望の勝利の歌』てふ溢美なる歌篇を作りて之を歌はしめ以て其聖き靈魂を天國に送りぬ。

夫人の事蹟はもとより外に顯るゝ如きものに非ず。されどペスタロチが事業の半は夫人の繊腕の助けによりて成就したるものなるは明にして、彼が告別の辭また其實を徴するに足る、蓋し夫人死して其夫の生涯の光明殆んど消滅したるならんか。傳者曰く夫人はこれ數十年間ペスタロチが家に降りて宿したる天の使なりと。イベルヅンの墓地にある夫人の朽つべき骸を埋めたる塚上、一柱の石碑は其面に左の文字を銘せり

貧民の友、人民の恩惠者、教育の改革者ペスタロチの價値ある妻。四十六年間彼が獻身犧牲の事業の分つべからざる伴侶として彼女は死後に多福且尊敬せらるゝ紀念を殘したり。

夫人は實にペスタロチの『價値ある妻』てふ名に値して尚あまりあるなり。

逸事

○日本第一等の養蠶家は婦人なり

奥州の養蠶家圓治梅吉氏が飼育する蠶兒は、天下に類ひなき肥大のものなりとて名聲高し。近頃實際を見し人に聞くに、蠶兒一疋の目方一匁九分より二匁に達し、其結ぶ繭は一升二

百粒にて足り、一斤より十九匁の生糸を得るとぞ。之を普通蠶見が、重さ一匁二三分に過ぎず、繭一升二百五六十粒を要し、之より得べき生糸僅かに十一二匁あるに比すれば、其に雲泥の差ありと云ふべし。圓治氏の名聲、海內海外に高きと故なきにあらず。然るに、實際此の榮譽を受くべきは、圓治の主人梅吉氏にあらずして、其夫人なりとす。良人は、十餘年前に死去したるに、夫人單獨にて業を繼ぎ、ますく名聲を揚ぐ。而して圓治氏の名最も世にあがりしは、實に良人死去の後にあり。加之、良人存在中より養蠶は專ら夫人の任ずる所にてありしとぞ。夫人、風采堂々、言語明晰、一見して偉風あり。

○女學生家を成して名あり

女學生、家を成して名を得し者多からず、實にちか子の如きは其錚々たる者なりといふべし、以て女學生の龜鑑となすに足らんか」と福音新報記者をして賛歎せしめたる農學士藤田九三郎氏の夫人ちか子は、近日良人に後れて寡婦となれり。多年疾あつき良人を助けて夙に北海道の介開あり、北海に遊びて見聞せしもの、皆な賛歎せざるはなし。

女學

ウイラードが受けたる教育、並にその施こせし女子教育、

フランセス、ウイラードは、ヤング、ウーマン雜誌に寄書して、自己が從來の生涯を記載し、學生たり、教師たりしとの經驗を語り、その如何なる教師も學校も遂に以て寬大にして慈愛なる家庭に勝るものなしといふに至ては、眞にその經驗に出でたるものなるべし。女史は曰く、余は余が尚幼なかりし頃、母か自らABCを余に教へ玉ひしことを思ひて、獨り愉快の情に迫ると。母は之を教ゆるに少しの急ぐ所なく、女史をして十分に氣儘に、その幼兒の爲す所に從ひ、嬉遊娛樂せしめ、女史が遂に倦み來て、その幼學入門を教へんとを求むるまて、決して之に強ゆるとなかりしとぞ、

小兒と聖書

ウイラード女史は幼にして已に聖經の批評を始めたるものゝ如し。曰く、我父母は余に信仰個條を教ゆるとなかりき、故

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

に余は十七八歳のときに及ぶまで未だ嘗て所謂聖經問答書等のとに就きては少しの知る所あらざりき。我等は常に相集ひまりて福音書を讀み、また祖先が古より敬愛し來りたる讚美歌を歌ひにき、思ふに余は此等讚美歌の感化を被ると少々ならざるなり。余は情甚だ頑固なりしを以て、聖書が天與のものたるを聞き、その如何にして此くの如き書が天より降りしかを疑ひ、常に母に問ふに之を以てしたりき、曰く、此書が天より降りしを見しものは誰ぞ、また此書は始め金の鎖にて空に懸りたるものなりしかと、母は直ちに之に答ふるとなく、余をその膝上に抱き、我等の周圍の大世界に存する不可思議の組織を説き、此くして自然神學に對する講義をなしたりきと。女史は齢十四歳に及ぶまで、學校に行きしとなかりき。思ふに女史が特に創造の力に富み、また質樸にして而も人を引くの力あるは此等の事情に由りて發したるものか。後女史は送られてシカゴ、カーレツに入學し、爰地に數年螢雪の勞を積み、普通の卒業證書を受領し、後用られて同校博物學の教師となり、同校がノルスウエスト大學と合併するときに當りて、更らに同校美術史の教師となりたり。

女史は此校に在ると十五年、自ら人に告げて曰く、妾が學生に對するや、獨りその學術智育の上にのみ意を用ひずして、更らに深くその徳性修養の上に盡したりと。女史は學生を集め彼等が皆基督信徒の子弟にして相當の責任あると、及び此の責任あるものとして身を處するの途如何を説き、以て學生自制自修の必要を知らしめんとを勉めたり。而して全校生徒を分ちて二部とし、之を上院下院となし、若し校内の規約法律等を設るの必要あらんときの如きは上下兩院の生徒をして、交互に討議せしめ、以て自家建設せる法律に從はしめ、上院生徒の名を自制表に記載し、下院生徒の名簿を名譽の春と名づけ、その席順の如きは各生徒の品行に由りて之を定め、資性の鋭鈍を問はず、共に上席に列するの機會を得せしめたり。女史は此の方法に由り學校生活の軋轢を減じて最微の度に至らしむることを得、學校訓練を以て生徒自修の方便となしたるを以て、大に教師の勞を省くことを得たり。女史はまた學生の戯曲的天性を利用して教育上有用の目的を達せんがため善行會なるものを組織し、學生教師皆なその會員たらしめ、役員等もその内より撰出し、一切の事務を掌らしめ、時に

ホワイト、ハウスの挨待より以下日常訪問等に至るまで、社交上種々の禮式を假裝擧行せしめしが、その結果甚だ宜しく今に於ては全く同校特有の美擧となれりとぞ。

文藝

同訓異義（四）

サ

サカンナリ

盛　しげりさかへて次第に物の大きくなる事
壯　氣がみちてたくましき意なり三十なるを云
熾　火のもえあがる如く勢さかんなる事
昌　次第にあらはれ明になりゆく意
隆　むつくりと中だかなる氣味
燉　火氣のさかんなる事

サク

裂　引さきやぶる事
割　さくとよめどもきりわる事
剖　さいて二つにする事
拆　ーレ斷ーい仵乂　二家産のるい

サトシ

敏　才智鋭行の人にすぐれてさとき事
聰　ものゝ聲をきいてあきらかにその理をさとる事
容　心がしこく思慮通せずと云ことなきを云

サトル

悟　自分で氣が付てがてんする事
解　しばりたるなはのさけるとより意理をさく意あり因てさとるとよむ
曉　夜があけて物色の分れたるが如くうたがひのはるゝ事
惺　心のさつぱりとする事
覺　目のさめたやうな事
　　目のさむると、をぼゆるはなにごとなく心を用ひずして知る旨
喩　迷へびとにときさかせてのみこますきみ

サハグ

騷　みだれさはぎたつ事
擾　わづらはしくみだる事
　　みだれて次第なき事

サイハイ

祉　きはまりたる福分ある事それだけの仕合を云
禎　吉事あるときは天より符瑞を以示これをぜんひやうと云
福　百咎の仕合にあへる事
幸　仕合せをねがふ事

サキニ

向　以前のことを今日に居て云ことば
曩　今よりすぎしむかしを指て云
鄕　すぎしことの不ㇾ久を云
前　すきしまへの事

シ

シヅカ

閑　忙の反ひまにしてしづかなる事
闃　しづかなる事
　　室中人なきを云
恬　心の部にしてたごろがぬやうす
寂　しんとしてさびしき事
閒　ひまあつてしづかなる事
　　まのある事
靜　動の反やすく定てうごかぬやう
　　になる事
徐　言行動作のしづかなる事
寥　しんとして聲の出てこぬはじめを云

シタガフ

從　それについてゆく氣味
隨　從に同してまかす意あり挽ーとは是非をかえりみず人にしたがふ事
率　ひきつれたる事
　　ひきひてゆく事、帥同
循　それにそうてゆく事
遵　したしのとなりにそれにそふてゆく事

シバラク

且　まあさうぶんと云ほどの事
　　少のうちと云氣味
間　まをおく事
　　少間ともつゞく
少　すこしとよむ
　　しばらくのまの事
暫　久の反すこしの間の一不ㇾ久なり時のまにて云事
姑　まあさうぶんのまと云氣味
　　姑息の雜事の上にて云
頃　しばしのま、よほどのまと云事

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

シバ〳〵

數せつ〳〵さい〳〵の意

シルス

記忘れぬためにしるす事
誌なほえかきの事そのことを人の目につくやうにしるしおく事

シルシ

効そのしるしのみえかゝり
たるところを云
徵ひきあはせにする事
引あてせうこにする事
驗しようこになる事

シク

布その物をしきのばして
一杯にならへる事
鋪きつしりとしきうつ
める事
播しきうへる事
のべしく事

シカル

呵やいこりやと云氣味
咄おろかなるものに氣をつくる事
喝聲をはりあげて
引付る氣味

シロシ

皤老人の髮の白き事
皠鳥の羽の白き事
素下地のしろきを云

ス

スベテ

屢數と同意なれども數は下に用
ーは上に用、ー來、ー問のるい
識見しりのために心おぼへし
ておく事
銘後に名をつけてそのことを
しるす事
效しるしのあらはれうき
でたるやうすの事
證しようこの事
印後のせうこになることのしる
しをしておく事、又あとをつ
ける事
敷一面にしきわたす事
席しきものをしきのべる事
叱しかりきめつける事
嘖りようけんがちがいてくるも
のを聲をかけてきめるきみ
皚雪の白き事
皏美人の白き事
縞白きぬの事

都四方より人のあつまりよる所
渾ひとつにべたりとなる事
水の一面ににごる意
統引すべてもつ事
綱の目をする事

スデニ

既をはる辭とくとそれのおはる事
前のことおわつてのぶる辭なり
すでにとよめども一はしかするから
はと云意なり又一已にと連用、已一
と用ゆるはまれなり

スナハチ

則なればと云氣味上の意に
よつて下の語を發す
廼乃に同
輒轍同、たちまちと云事
即然なり

スミヤカ

速早くらちのつく事
遽めつたむしようにはやき事
急卒意
急はつみきつてゆとりなき事

スクナシ

尠ことすくなにとりはか
らふ事
小あたりよりは小さきを云
些すくなき事
鮮尠同、かすのすくなき事、
幾程もなき事
瑣ごさ〳〵とした事
こまかなる事

スヽム

晉段々向へ入こむ氣味

總引すべて一つにしてもつ氣味
凡大抵と云氣味
管領内をすべてもつ事
已大抵上と同用れどもーは前事お
わるおわらざるのあいだにいれ
をこす辭
乃上をうけて事をつぐ事
則よりは緩
すぐにをつゞく事
即其ばをはなれずすぐにと云
あいのなき事
便更ㇾ從ㇾ更從ㇾ人有ㇾ不ㇾ善一
更ㇾ之則安
迅風雷のときの事
卒にはかなる事
疾行くことのするどなるや
うすを云
少不ㇾ多也ものたらぬ事
幺目に入るやうに小さきを云
微少眇なりあまり微眇にし
て見へがたし
寡數のすくなき事
進段々向へでゝゆく氣味

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

薦 すゝめて向へ受さする事
前 向へすゝみ出する事
勸 すゝめて其氣になるやうにする事

ス　ム

棲 地をはなれて高き所にさまつてやどる事
住 其所に住居して外へうつらぬ事
栖 古棲鳥の木にやどる事　陸鳥曰レ栖鳥曰レ宿手に從ふものはしつろり

セ

セ　バ　シ

狹 陜同らい地なくきうくつなる事
窄 中のすぼりて物を入る事　少き事
隘 兩方のつまつてほそくして其間に物の入るよけいなき事
褊 身はゞのせまき事

セ　シ　ム

令 おしつけさしづする氣味
遣 せしむさよむ紀事の文に多用
使 さうさせる事
俾 せしむさよむ

ソ

ソ　シ　ル

謗 人にわろく思はせんさして　わろつけする事
訾 人のひなづを云ひたてる事
訕 人の旨をやふりそしる事
讟 人のしおちをなじり　そしる事
非 さうではなひさそしる事
誹 人の無事をいひ立つる事　誹謗さつゞく
譏 うたがひそしる事　氣をつけぎんみする事
詐 いひせむる事　ものをぎんみしてきく氣味
讒 人にわるく思はせるやうに云ひなす事
刺 人の所にたつやうにそしる事　はんぐよう打こむ事

ソ　ム　ク

乖 もさりたがふてあちらこちらになつてゆく事
負 恩にたがふて德を忘る事　うしろにする事
背 うしろむきになる事　面をそむける事
叛 こちらかたのものがあちら方になる事
反 上同ひつくりかへる事
畔 うらむきそむく事

ソ　コ　ナ　フ

害 それをいたくそこなふて勢をさめるきみ
損 そこなひをさす事かずの定たるものを段々へらしのける事
傷 きづゝけて自由のならぬものにする事
忮 もさりそこなふ事

ソ　ナ　フ

備 かくあらんさかれて用意なしおく事
具 首尾のそろう事
供 そなへあたへる事
饌 食物をそなへならべる事

ソ　ヽ　グ

灌 植物に水をそゝぎかける事
注 向へゆくやうにしかける事
滌 その上へ水をそゝぎ流れかける事
濺 水をはれかける事
灑 水をまきちらす事
沃 そゝぎてそれにしみこます事　もつてそれにかける事

ソ　フ

添 外物を加へた事
沿 それにつきそひしたがひゆく事
副 そのかはりになるものゝひか へにする事
陪 その物にそひしたがふ事

ソ　ル

挺 その中をぬけ出てそりかへる氣味
剃 髮をそりてのける事
反 うらの方へひつくりかへる事
翦 鬢のわきへそれてゆく事

ソ　レ

厥 語の辭そのさよむ時は指示の辭
其 同レ上それさよむ時は發聲そこさは又してさものさもあることさなり

た たゞさき　語の助辭中一段端なあらた

○女學雜誌の事　ふみ子さやらん記名せる隨筆ものゝ中には少しく余を滿足せしめたる書き物ありたり、ふみ子さは何れの令夫人か令孃か知らざるが此女史稍や余が謂ふ女子は陰なり消極的なり受身なりさの事實を知り居らるゝもいゝ如く論の立て方如何にもオトなしくコウ云ふ工合にやつて來られては反對は出來ず如何なる男子も同情論に同意すべく縱ひ議論の上にては同意せざるまでも實際の上に於ては必らず尻にしかれても滿足すべしさ感ぜしむる樣なりし。（二月十三日都新聞論評）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

押川方義君の母

左は、一月七日仙臺に於ける橋本只子女史の葬儀に於て朗讀せられしものなり。

橋本只子君行狀

君本姓は中村父は松山藩監察有平次諱思問君母諱は、ひさ子君は其長女なり文政四年十一月八日を以て伊豫國松山に生まる十七歳の時松山藩大納戸役橋本宅次諱は昌之君に嫁ぐ四十一歳にして昌之君卒し經光君嗣ぐ于時經光君僅十七歳君家事を擔任し三男一女を教育し少しも倦怠あることなし明治五年始めて基督教を押川方義君に聽き同十四年伊豫國今治に於て横井時雄君より受洗す同廿年八月仙臺に移り同廿四年七月松山に歸り廿五年九月復び仙臺に來り廿六年三月心臟僧帽辨膜合閉不全病に罹り廿七年一月五日遂に卒す享年七十有三、四男三女あり長男　某　夭し二男經光嗣ぐ三男方義出て押川氏を襟ぎ四男順役に廣島鎮臺に在り明治十五年病沒す長女　某　夭し次女某松山市芝山守約に嫁つぐ三女　某　亦夭す君性行淑均確實にして實踐躬行を重んじ其兒孫に對する終歳一日の如く公平にして敢て私あることなし其家政を理する約を守るを主とし寅に起き子に臥し勤勉怠りなく以く家計を助く其良人に事ふる一に貞節を旨とし常に其役は半は之を助く其征長の役京師の戰に從ふや能く家政を整へ敢て內顧の憂なからしむ其子女を教育する常に正直正道を躰せしめ最も繼嗣を重んじ出て他家を嗣ぐものと雖も主として斷絕等ある勿からしむ其事を處するに當りては天地神明に對して愧づることなきを誓ひ其精神を凝らし一旦決意する處あるときは人如何に之をいふも容易に變更することなし其崇敬は祈禱と信仰とを常にし能く祈禱の人となり告求を以て喜樂とし安慰とし且勢力として世を終るに至れり。

弔詞

同鄉里　辱知　佐伯陽一謹述

維明治二十七年一月五日、橋本たゝ子の君病を以て長逝す、嗚呼哀い哉、君は即ち橋本經光君及び押川方義先生の北堂、文政四年十一月封建社會嚴肅の中に生れ、明治泰平の世に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

存らへ、年を享くると七十有三歳、父は門田氏、地方の豪族たり、其先は長曾我部氏となす、君橋本家に嫁し、貞烈、靜肅、孝義、慈愛、能く良人に事へ、能く舅姑に事へ、能く其子を敎ふ、君自ら持する甚だ重く、言行必ず責任あり、其大切なる事を行ふや、曰く「神かけて之を爲す」と、君平生以爲へらく「家は是れ尤も重んずべきものなり、家を整ふ是れ國に報ずるなり」と、其子に敎ゆるや、曰く正直、曰く正道、曰く廉潔、曰く他愛、君之を口に言ふよりは却て行よりして、寧ろ自らの人物を以て無爲無言の間に之を示せり、故に其言を出すや、明星の如く光あり、金石の如く音あり、火焰の如く熱あり、清泉の如く養ひあり、以て直に人の心魂を動かすべし、宜なる哉其押川先生を出せるとや、君の所謂家を整ふ是れ國に報ずるなりとの信念は、結んで玆に善果をなせり、君の生涯艱難多くして歡樂少なし、君が餘命をして更に長からしめんとは衆人の望む所なりしに、今や永世不歸の人となる、嗚呼哀い哉、明治四年、押川先生の洗禮を受くるや、君擧家擧族と共に深く之を痛み、君殊に甚し、道理を以て血涙を以て屢々先生に諭し、以て其信仰を止めんとす、先生至孝爲めに心碎くが如く、誠祈熱禱の後、謹みて其前に跪き、堅く自ら決心する所を陳ぶ、曰く「此敎を棄つるは神に對して宥さるべからざる罪を犯すなり」と、君之を聽くや翻然として曰く「然る乎、基督の敎を棄るは大罪なりや」と、遂に復言はず、これより轉じて先生の爲めに辨護の地位に立てり、君心に以爲へらく、我が神佛を信ずると我子の基督を信ずるとに及ばず、基督敎果して如何なる力を有するものぞ」と、爰に研究の志を起し、明治十四年、自ら決して洗禮を受け、不信、誹謗、迫害の中に孤立確信すると三年、毀る者に答へて曰く「如何に人の之を毀るも、是れ熊の信ずる所なり、自らは熊の信ずる所を信ずるなり」と、熊とは即ち押川先生の幼名なり、後先生と橋本經光君と共に仙臺に來る、君も亦來りて經光君の家に在り、明治二十三年七月十三日、君が最愛の孫、即ち經光君の長男、誤て廣瀬川に溺死す、君單純の信仰を有す、以爲へらく「何事にても祈らば聽かるべし」と、乃ち誠心誠意其蘇生を祈る、而も聞かれず、是に於て乎祈禱につきての疑問生ず・沂日沂夜祈ることを止めて一室に靜坐默思す、而して豁然として悟るとあり、經光君を召し謂て曰く「自らは今能

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

く敎の眞意を解せり、死生榮枯皆神の無量の愛より出づ、之を思ふて益々深く主の爲めに勤めざるべからず、汝能く之を躰せよと、君妄りに信ぜず、其信ずるや必ず赤心よりす、血と涙と生命とすべて其信ずる所に在り、明治二十六年三月病に臥す、蓐に在ると十閲月、其間苦悶甚し、而して其常に祈る所、其子の爲めと其家の爲めとなり、病重うして死必ず來るを知る、而も安んじて神に感謝す、君の病を訪ふて慰めんと欲する者、却て君が信仰希望愛心によりて慰めらる、想ふ嘗て余が君を訪ひし時、君其苦しき呼吸の中に言ひ難き喜悅の色を以て余に謂て曰く「萬事神に任せ奉るなり、神は吾等を守りて宜しきやうになし給ふなり」と、其容猶目に在り、其聲未だ耳を離れず、再び君の聲容に接せんと欲するも、君既に此世に在らず、嗚呼哀い哉、君遺命して、嘗て自ら節儉して買ひ、自ら縫ふ所の粗服を着し、嘗て押川夫人が東都より購ひ來りて呈せし帶を纒ひ、而して殯斂せしむ、嗚呼花は喜んで春風に笑ひ葉は安んじて秋風に落つ、君の如きは眞に天命を知る者と謂ふべき哉、地上今此賢婦を喪ふ、嗚呼哀い哉、雲慘怛として山川爲めに悲み、雨濛々として天地爲めに痛む、風吹きて樹叫び、鳥驚きて聲稀なり、嗚呼哀い哉、然りと雖も地上の哀みは天上の喜びなり、天上には今一人の義人を迎へて天使の音樂を奏するあり、君が良人と、君が愛子と、君が愛孫と、彼のモニカと、彼の孟母と、共に喜びて君を迎ふるならん、吾等は之を思ふて、更に益々信を篤くし、望を堅くし、愛を深くし、以て我が押川先生と共に、主の道の爲め、日本の同胞の爲め、畢生の心力を盡すべきのみ、情餘りありて言盡さず、嗚呼々々哀い哉。

明治二十七年一月七日　東北學院神學生　川合信水拜艸

米國人愛讀の小說

ハミルトン、ダブリュー、マビー氏は去る十一月發行のフオーラム誌上に、一書を載せて、メッセル、テイト會社か公衆國立圖書館に就きて取調べたる社會上最も愛讀せらるゝ小說統計を取り分解總合して社會一般の趣好の方向を發見せんとを勉めたり今その略を記せん。表中記載せる書籍中第一多數なるはブビッド、カッパーフイルド、第二はアイバンホーにして、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

その第三をモスカーレット、レターとなす。而して三の第一位に位せる十一種の小說中八種は之を文學的の品格上より見るも、またこの巧妙の點より見るも第一流に位するものにして、また實に現世界に存在せる小說中の最上中の一たり。但一層精細に考察分解し其國著者の手に成たる書籍の同表中に在るものを相比較して、記者は我公衆か撰ぶ文學的抽象的性質は虛想的勢力と感情筆意の新鮮あるとを發見したり。而して全表百七十七種の小說中七十六種は文學的品格上最高位に位するものにてありき、爰に驚くべきは、トルストイ。ターゼニーフ。ココール。ドストエプスキーを始めとして、バルセク。ドーデイ。デ、モパッスサント等外國秀逸なる小說家の名を合まざるとにてある、倚殊に驚くへきは英米兩國文壇上の名將たるトーマス、ハーレーの名の此内に漏れたるとにして記者は之を以てハーレー小說の特色たる快豁の欠乏に基けりとなせり。また記者はホープの名の漏れたる原因を解して、氏か男子に對する小說家にして、婦人の嗜好に適せさる故なりとなせり。蓋し米國に在り小說を愛讀するものは多く是れ婦人なれはなり。

つれ〳〵草

友を懷ふ

六合學人

會ひ見ずして年を重ぬると雖ども、念々斷えず接合して離るることなし時を期して會合せんとすれば、一日千秋の憾みあり、朝々夕々足を欹だてて待つ。既に面を合わすれば、先づ健康を察す、知らざる所ろは單に肉身のみなるが故なり。默視すると少頃にして僅かに數言を交ゆ、爾々千万無量の情あり。辨ぜずして、其義を知り解かずして、其旨を覺る。思想は思想に通じ、精神は精神を抱く、了々として些との障礙なし。

近ごろ腦を疾みて万事懶うしと雖ども、彼に接すれば、心氣の爽然たるを覺ゆ。而て大聲を發するとなし、毫も互ひに激勵するを要せざれば也。苟くも細語を辭せず、婦女子の情に恥ぢざれば也。歎、一とたび邦家の事に渉れば、君と吾と手を携えざれば、同胞を奈何んせんの慨溢る。開露して一

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

身の秘密を告ぐるに當りては、天下、他の何人に同情を求めんやと感ず。

生れたるの日同じからず、然れども願ふらくは死期を一つにせん。棲住の家居相別るれど、而も、心意安住の處を同じくせん。君をして獨り邦家に身を献ぜしむべからず、必らずや伴隨せん。水に投ずれば、相抱き、先後なけん。火に燒かれなば、相列び、共に天堂に上らん。

嗚呼、吁、今の時、人を要す、而うして人の少なき哉。天地いよ／＼廣くして、人の數ます／＼少なし。交人大ひに増して、知己きわめて稀なり。彼を置ひて、何處に同志を求めんや。

夫れ今は危機なり、邦家千歳一遇の大時節、正に近づきぬ。眞正維新の事業之より手を着け、眞正同志の歩武之より足を揚げざる可らず。君、願はくは、健在に、同胞万衆の爲に身を重んぜよ。吾も亦た然かせん。抑そも曉鐘の鳴る、何の時ぞ。天の呼び聞ゆる時、何の日ぞ。君を送りて暫らく相別る君と相會ふ幾日の後ぞ。暮色暗澹として鳥、栖に歸り、白水遙々として、波、海にうつる。われ、獨木橋頭に立つて、つらく／＼深吟す、吾等が勞役了り、天に歸休するの時は、抑そも何の時ぞと。情義、百年に消ゆべからず。愛恩、千歳にして、盡くべけんや。吾等は、永遠の同住を確信す、而して浮世の戰場に相ひ鼓舞するもの也。君よ、健在なれ、吾も亦た然かせん。此身ともに吾等が主の身なり、願わくは日を期して同日ともに其陣頭に献ばん。

夢のあと（上）

白心子

その一

思ひまはせば　何ごとも　夢なりけらし　はかなきは
この世のつれさ　人なみの　云ひぞその身の　そのこさに
あはぬ昔しは　樂しくも　また美しき　世の光り
心にめでぬ　もろ人を　愚かなりよさ　思ひてし
われは過ぎにし　昔しなる　今は匂ひる　園の花
清き月かげ　みどり子の　罪なき笑も　乙女らが
春こそ來れさ　欸ふ音も　目に見ゆるもの　耳にしも
聞くものみなは　あやしくも　世ははかなしさ　わがこゝろ
沈めぬはなき　憂世かな

その二

甲斐なき夢の　あと追ふも　逝きにし人は　歸らじな
左は思ひども　戀しきは　勝代のきみよ　今ならぬ
ありし昔しの　その日こそ　いと愛らしき　世なりける
いと愛らしき　世の中に　きみと遊びし　嬉しさよ
きみとかたりし　樂しさよ　その嬉しさを　樂しさを
夢にうつゝに　まぼろしに　思ひ出でゝは　われしらず
きみが面影　眼に見えて　はかなくひとり　のこりにし
世はあぢきなく　かなしきを　露のひぬまの　忘れぐさ
きゆるもおしき　身ならぬよ

その三

きみさわがみは　筒井づゝ
あさき練しに　あらぬなり
思ひ出せば　またさらに
血をはく色の　紅楓葉も
梢にのこる　二葉三葉
なほ吹きくるふ　風の聲
音も悲しげに　心さへ
あゝあの夕べ　君の母
ゆきし所に　いまきみの
われをのこして　ゆきしごさ
おれをのこして　ゆきしなり」
天にかゑりし　母の身に
明日は癒ゆるさ　のたまひて
抱て寐なむさ　のたまひて
何ゆゑはやく　しにたまふ
明日よりのちは　せぬゆゑに
のふ母様さ　泣きさけぶ
哀しさをしも　打ませて
きみなげひしさ　抱きしめ
この時よりし　わがこゝろ
きみをあはれさ　いたはりぬ

その四

學びの庭を　歸るさき
きみが心な　なぐさめつ
温かきキス　やはらかき
ふかき泉に　胡な夕
すべて消えにし　夢に似て
母てふものは　あらぬなら
母なききみは　われをしも
あやしくきみを　いさしみぬ
狂たはぶる　小童らの
かたみにまちつ　またれつゝ
われはさびしく　思ひけり
きみたゞひさり　なきにけり
きみはわれこそ　したひたれ

ふりわけがみの　ころしより
君がなゝつの　秋のくれ
悲しさ添ゆる　あの夕べ
たけれる風に　ちりちりて
あはれその葉を　なさけなく
いさものすごく　啼く鳥の
消えよさいひし　あの夕べ
わが伯母上の　いま君の
追ひしたびぢに　きみのいま
君をのこして　ゆきしなり
呼ぶも甲斐なき　幽魂は
すがりつきつゝ　きのふまで
癒えたろうへは　もさのごさ
そな樂みて　待つものを
妾に惡しき　とあらば
母様しにて　たまはろな
君のこゝろの　いとらしく
幼なきわれは　夢ごゝろ
さもに涙に　むせびけり
きみないさしさ　思ひそめ

あろは枕に　泣く夕べ
きみがからだを　いたはりし
かひなまくら　いつくしみ
こぼるゝ笑がは　背の架も
あはれ幼なき　きみがみに
永き別れの　夕さより」
あやしく笑ひ　われはしも
友よびかはす　小女子の
群にふたりは　いらぬなり
きみさひさつに　居らぬ日は
われのひさつに　ならぬ日は
はらからよりも　父よりも

その五

霞たなびく　春のあさ
のどかに照らす　日のひかり
みどりの野邊の　そこやこゝ
あろはよめなの　やさしくも
匂ひろ薔薇の　香を贈る
蝴蝶の投りの　面白く
かたみに手に手　ひきあひて
今の辯しさも　今ハはや
いにし夢さは　なりしかご
手づきのいまも　思はろゝ
きみを泣かせし　いたづらも
われをばきみは　恨みぬか
わがかたはらを　去られごも
さらばわれこそ　歸らめさ
涙含みつゝ　わが袖を
いたけききまの　愛らしく
幼なごゝろの　たはむれに
涙にぬれし　頬のうへ

その六

きみが十歳の　春なりき
枕にふせる　夕べより
われをみさらむ　こゝろにて
迎ひの人の　來りても
枕のもさを　去らぬなり」
保攻なけに　わが頬に
頬のかくまで　やせけるよ
いく日過れば　癒え玉ふ
涙ぐみつゝ　わが顔を
愛のまかりよ　世のつれの
おはまりつき　かくれんば
あやしくわれを　微ひ給る
かひなのべつゝ　手をさりて
病重りて　きみおきて
あさに何さか　したまふさ
そのわれはしも　いまこゝに
さだまりがたき　いのちかな

そら高く舞ふ　鳥かげも
うけて千草の　萌え出し
すみれたんぽゝ　つくつくし
いさ染しく　咲きみだれ
春風にしも　たゆげなる
樂しき巾を　きみさわれ
花をつみつゝ　戯むれし
いにし夢さは　なりにけろ」
花摘むきみが　愛らしき
ひさつのすみれ　あらそひて
ふた度三度　にはあらぬ
わがかたはらを　去らぬなり
すれつゝものも　いはぬゆゑ
ゆかむさすれば　きみはしも
さらひてまたも　なきにけり
など歸らむさ　抱きよせ
可愛さつまさ　さゝやけば
きみはゑくぼを　見せてけり

われは枕に　ふしにけり
幼なききみは　やさしくも
わが母上の　すかしても
かぶりふりつゝ　束のまも
楓の如き　手のひらを
推あて見つゝ　あのまるき
いづこのいたく　おはすにや
哀しきさに　なりけりさ
見つむる眼さへ　幼な氣の
小女なりせば　ひなあそび
ほかに心も　あらぬ身の
その心根の　いとらしく
われは死なじさ　思ひごも
見ろこさならぬ　世に行かば
かたみにそひろ　泣きにけり
そのきみはしも　いまいづこ
（以上前半）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

片々

時文女學

近ごろ新聞紙上に、女學に關する時文多し。中には、目出度きこともあり、忌々しきも亦たありといへど、何れも「女性」を重しとしての立案なれば、多少の滿足なきにあらず。冀わくは、彌よ多く女性の善分子を世に發揮せしめ、其醜分子を彌よ深く世より隱れしめんことを。

○大奥の女中

讀賣新聞紙上に連載して、既に百回に超え、叵に五代將軍の代に及びたる大奥の女勢力の記は、珍らしき緻密の穿鑿なり。同紙上に、近日より始めたる、

○賢母傳

は、入江滿智子の傳を最初とす。古へに於ける穿鑿の彼が如く綿密ならば、今に於ける探究は易々たることならん。願ふらくは、當年の佳人傳の如くして止むことなかれ。

○東京市中貧民の生活

は、青森縣下八ノ戸に帝國濟民會を起したる原十目吉氏が探撿の結果なりとす。二月八日以后、讀賣新聞紙上に掲載せられ、幾多の肉食者を警醒す。

○明治烈女

と冠して今泉うた子の傳を新朝野新聞二月十一日以后に掲ぐ良人を失なひて、山の如き負債を引うけたる貞女が處置、今の安樂婦人を戒しめて光彩をはなつ。

○いま〱しきは

改進新聞紙上に連載する東都令孃鑑なりとす。何番地何の某が娘にて明治何年出生と註し、「目鼻立ち難なく色白きこと雪の如し」とか、「去れど斯る美人にも一つの難はありけり、其は眼眦のキレの長過るにて云々」とか記し、而も、翌日は、何町の何丁目より一人を出すと豫告するなど、他の愛孃を品評して、室家の神聖を害す、當人は申すに及ばず、その父母たるもの丶迷惑察すべし。發行停止に嚴めしき今の內務大臣は、何故かゝるもの丶取締を厲行せざるや。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時報

◎學校、敎育

●華族女學校幼稚園規則　宮内大臣は去る七日華族女學校内幼稚園の規則を達せられしが其要點を擧ぐれば同園は華族の子女學齡未滿の者を保育する所なれども士族平民の幼兒も入園を許す事あるべしとの特例あり其の保育の趣旨は幼育身心の發達を幇助し善良なる言行を育成するにあり、年齡は三年以上六年未滿にして保育は修身、談話、庶物、計方、手技、唱歌、遊戯等に據り保育時間は一週二十二時間の定めなりと而して幼兒は其父兄より願書を添へて校長に出願すれば何時にても入園する事を得べしと云ふ

●華族女學校内幼稚園設置の理由　元來幼稚園其者の現社會に必要なるは勿論我國上流社會の女子にして學校敎育を受けたる者の多くは其課程を卒業するに至らず中途退學して婚嫁するは偏に就學期の後るゝが爲めなりされば右等子女に對しては學齡に達すると同時に直に就學を督促するは勿論なれども又一方には就學の便法を與ふるが必要なりとて扠てこそ今回華族女學校内に幼稚園を設け本校に在學する者の弟女等をして其愛姉と手を携へて朝夕登園せしめ而して學齡に達するや直に本校に就學するの便法を與へたるものなりといふ尚ほ同園設置に就て最も注意する處なりといふを聞くに當時他の幼稚園に在りては幼園特殊の性質たる保育といふよりも寧ろ敎育に偏するの傾きありて爲めに成童の後却て身心發達の妨害をなすものあれば大に此點に注意して專ら保育を努め秩序ある身心の發達を幇助して善良なる言行を　成するに在りと尚ほ同園は本校[illegible]并に準備中ありて來る四月上旬開園の見込なる由

●女子高等師範學校卒業生採用に就て　女子高等師範學校に於て來る三月卒業すべき生徒は高等師範學校に十五名小學師範學科に三名都合十八名にて今回其筋より各府縣へ採用方の儀に付き照會したるにより宮城縣に於ては内務省部長より管内各郡市長へ對し採用の向もあらば其學校名及俸給等回答されたき旨照會されし由にて高等師範學科卒業のものは十五圓以上二十圓以下小學師範學科卒業のものは十五圓以上十八圓以下支給の豫定なりと云へり

●頌榮女學校　芝白金猿町の同校は今回更に裁縫專門部を設け貴賤貧富の別なく均しく和服并に洋服の裁縫術を專門に敎授するよし

●子爵夫人母堂の武術　樞密顧問官海江田子爵夫人の母堂かよ子には今年五十四の老齡なるが性來氣丈の質とて大刀打つ業弓彈く術は妙齡の頃より其の蘊奥を極め日頃婦女子の軟弱を嘆ち居られしが此の程貴夫人社會に眉尖刀使ふ業の持て囃やさるゝに至りしよりかよ子此上なく打ち喜び斯くなくては世は治まらぬものぞ治に居て亂を忘れなばいかに口惜しかるべきと今は傾く老の身をも打ち忘れ明治女學校の武術師範志田某氏を招聘し毎日時を限りて眉尖刀の稽古に餘念なしとぞ斯母ありて斯子あり子爵夫人も亦標緻の袖に襷綾どりなど〳〵そが練習に怠りなく此の頃は餘程上達したりとなり（新朝野新聞）

●賢母傳　去る十日の「讀賣新聞」紙上より賢母傳を掲載し始む第一に現れしは入江滿智子女史の性行にして現樞密院顧問官子爵野村靖氏の母公なりとぞ編者序して曰く

「一[illegible]レ國誠忠十八歲、[illegible]レ家貧士二十金」とは是れ松陰先生が弟子野村和作の脫走を送りし詩にあらずや和作は則ち現樞密院顧問官子爵野村靖氏の幼字なり客歲初冬の交靖氏其先妣貞流院君の喪に居り往事を追懷し深く孝心の純ならざりしを悔み茲に年月を追ふて其の大要を錄し一は以て自ら責むるの具となし一は以て母君高德の一端を表し併せて兒孫をして之を讀みて自から警しむる所あらしめんと欲し一冊子を綴る名けて「追悔錄」と云ふ借りて之を覽るに當時の光景歷々として目前に迫まり來るものあるを覺ふ乃ち更らに翻案して賢母傳の劈頭に掲げ一は以て其の芳烈を天下に紹介し一は以て聊か世の女流の箴規に供せむと欲すと

●女學雜誌六十四號「行く春の記」の中誤植あり左に正す

頁	段	行	正	誤
一〇	下	一五	颯々の	颯々さ
仝	仝	仝	磅礴	磅々
仝	仝	一六	小女は	小女も
一一	上	一	「れ去りぬ」の上「て別」の二字を脫す	
一三	下	一八	立ちぬ、	立、
一四	下	八	それは	されば
一六	上	一八	微かず	微かで
一七	下	五	それよりは	さきよりは
一九	上	七	すゑ	すえ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女子高等師範學校長 細川潤次郎先生序文
華族女學校長
女子高等師範學校助敎諭
共立女子職業學校講師 寒澤振作君著

家政の栞

全一冊洋裝 大判二百頁 正價貳拾錢 郵税六錢

本書は尤も多數なる中等社會の婦人を標準として平易に家政上の事柄を述べたるものにて其目次は總論に於て主婦の務めの貴重なる所以を論じ二章以下時間の儉約、物品の整頓、品物の時價、貯蓄、經費、手藝、物品の保存、雇人の待遇、室內の取締、家屋の構造、廢物利用等全篇十二章に分ち詳密に辨ぜし者なり良妻淑女一閱して家政上の智識を得られんことを

吉田正雄君著
女子算術書
全 正價拾貳錢 郵税四錢

本書は特に女子の爲に算術を說明したるものにして凡て女子が成長して家事經濟に於ける運算の妙部を知らしめんとて皆日常の問題を取り他日活用の素を養成せしむるものなり

華族女學校學監從五位下田歌子君著
文部省檢定濟
家政學（第二版）
全 正價六拾錢 郵税拾貳錢

醫學士三島通良君著
はゝのつとめ（第五版）
全 正價五拾錢 郵税六錢

坪谷善四郎君著
閨秀錦嚢
日本女禮式（密畫入）（第拾版）
全 正價五拾錢 郵税拾貳錢

坪谷善四郎君著
家政整理法（第四版）
全 正價拾五錢 郵税八錢

飯島半十郎君著
家事經濟書（第七版）
全 正價拾貳錢 郵税四錢

文學士濱田健次郎先生校閲 濱本顯義君著
婦女教育
明治姫鏡
全 正價五拾錢 郵税八錢

陸軍々醫總監松本順君題辭 堀誠太郎君譯
婦女性理一代鑑（第三版）
全 正價三拾錢 郵税拾錢

醫學士中村正道君著
小兒養育法
全 正價拾錢 郵税四錢

須永金三郎君著
婦女手藝法（密圖入）（第三版）
全 正價拾五錢 郵税六錢

第三高等中學校教授 醫學士高橋金一郎君著
通俗看病法
全 正價拾五錢 郵税六錢

刈城森種太郎君著
衛生美身術
全 正價拾錢 郵税四錢

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

毎土曜日發兌

東京經濟雜誌

第七百拾貳號 二月十日發兌

社說◎米價の前途如何◎地方稅改正意見◎米國の關稅改正問題第二◎輸出稅全廢に反對する者を選擧する勿れ◎政界の三本尊◎近世財政事情◎K・O・生の質問に答ふ **經濟學協會**に於ける田口卯吉君の演說 **論說**「すわる」との害(末廣一雄) **マルコ、ポーロ紀行**(續き) **墨國探征日誌**(續き) **雜報** 數件 **銀行**及び**商業之景況** 數件

◎定價一冊金七錢市外郵稅五厘增

東京市京橋區彌左衛門町十七番地 合名會社 **經濟雜誌社** 電話 千二百二十三番

內村鑑三君著

傳道の精神

定價金拾五錢 郵稅金四錢

目次

一 傳道の精神

其一 衣食の爲にする傳道 其二 名譽の爲にする傳道 其三 敎會の爲にする傳道 其四 國の爲にする傳道 其五 神の爲にする傳道 其六 人の爲にする傳道

一 理想的傳道師

一 如何にして宗教界今日の亂麻に處せん乎

敎勢振興策として此書出づ、實際的の議論として一讀の價値あらんや

發兌 東京新橋出雲町一番地 **警醒社書店**

每金曜日發行

福音新報

第百五十二號(二月九日發行)

目次

◎福音新報 信仰之友(主の招きを聞て感得す) 朋友

◎團欒 敎會の欠席(紫菀)○十二月廿三日

◎說苑 牧師と健康

◎外事 紐育に於ける監督敎會の發達○インデペンデントの第四十五年○露國正敎○米國トラクト會社の名譽○復古加特力と希臘加特力兩敎會の合同○支那人侮るべからず○アーチヂーコンファラルと高等批評○獨逸今上皇帝の信仰

◎敎報 福島縣飯坂、東海道島田、同志社、豊浦、松江、長崎、鹿兒島、橫濱各地方通信○農學士藤田九三郎氏の永眠○個人

◎新刊紹介 保育學初步○新橋の圖○基督敎

定價一部二錢五厘○十三部(三ヶ月分)卅一錢五厘○廿六部(半ヶ年分)六十錢○五十二部(一ヶ年分)一圓十四錢○府外郵稅一部ニ付五厘宛

發兌 麴町區四番町四番地 **福音新報社**

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

樋口忠子著

基督教

一月廿五日發兌
正價郵送料共
金四錢
郵券代用諾す

此書素と樋口忠子氏唯少しく基督教の主旨を某中學校學生諸氏に知らしめんが為めに稿を成したるもの、故に青年諸氏の為めに謀るもの多し。頃日信天社主人故あり東都にあり此稿を二三の大家に示す、皆勸むるに之を世に公けにするとを以てす、乃ち訓諭に從ひ直ちに印刷に付し妄りに世に公けにす。若し夫れ其小冊子たるを笑ふなく其著者の婦人たるを蔑するなく青年學生諸氏の一讀を得ば幸甚とす。

發兌所 大和國郡山町小川町 信天社

近藤嘉三先生著 諸大家序文

言語作法 貴女の心得

全一冊
實價十四錢
郵稅四錢

表紙石版美本菊版大形圖書六十餘挿入

本書略目次は淑女の心得夫人の心得化粧の要訣談話の心得訪問の心得賓客接遇の心得室内粧飾法和歌の書方香道の心得茶道の心得新式和洋挿花法家庭衞生法等其他數科にして一々圖書を以て之を平易に說明し其數科の内一科を心得るも有益の書なり所謂貴女の位置眞價を進んとする婦女諸君本書を一讀せられなは本書は實に夫人の教師として淑女の朋友として而かも眞成に多識多藝なる良師良友を得たると同し價値を有し眞の貴女たるを得ん

賣捌所 東京市神田區表神保町六番地 女學雜誌社書店

鈴木弘恭大人講述

第五版 百人一首講義

（附錄小倉てびき）

正價金廿八錢
郵稅六錢

御高評を得たる百人一首注文いよ〳〵多く第四版品切に成りたれば茲に第五版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて、百人一首それ〳〵の歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すとを得て至極重寶なり。

鈴木弘恭大人著述

改正增補 文法口授

全
實價金十二錢
郵稅金二錢

右は文章家なる鈴木大人が多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて目次、文と云もの丶譯、章句段節の譯、文を作るに容易なる譯、多く文を作るを善とする譯、文を作る工夫の事草稿の譯、幷に書方、文を練磨する事、文を作るに病癖ある事、佳篇を作る法、文を培養する法、種々の文例等なり

鈴木弘恭大人口述

雅俗諸躰 作文口授

全
實價金二十錢
郵稅金四錢

此書は大人か各學校に於て實地に授業したる者を筆記したるなれば國文の作例は勿論許多の熟語をも擧られたり此書を一目せば如何なる初學者と雖も消息記事論說諸躰の雅文を立所になし得らるべし諸君速に購て試み給へ

發行所 女學雜誌社書店

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

高等女子師範學校長
從三位細川潤次郎君題字
中島知子著　岡田廣鶴女史挿畫

校正

日本の裁縫と女禮

本書は縫ぬぎの初歩より衣服袴等に至るまで順序を逐ひ裁方縫方並道具の使用法まで一々圖解を以て叮嚀に談の躰に書綴尙物事にふれて女禮をも夥多の彩美書を加へて説き示し師を要せず女子の道を悉く知る實典なり第一版は賞品等適當とて好評を得て既に賣盡し今更に校訂再版出來せり婦女方は早く購められよ

第二版
和裝本全二冊金四十六錢郵税不要

小野鵞堂先生書

女子消息

文のかきふり

上下二册

實價金三拾六錢　郵税金六錢

女子の書牘は、おのづから其かきぶり存するなると、近來玆に注意する人々稀にして、眞字がちにこち〳〵しき漢語をまじえ、おのこどもの書きなすものと、別ちなきやうに見ゆるそうたてき。そも〳〵文は、その書きふりうるはしければ、なんとなうゆかしく覺ゆるものなるを、女子にふさはしからぬ、とげ〳〵しき文字のみ流行すなれば、いかてと思ひたちて、連綿墨つぎの法を考え『御候』字なとのおき所をたいし、熟語を除くほかに、多く假字文字を用ゐたり。云々編者誌す

同

高等

女子文かきふり

實價金三拾一錢
郵税金六錢

この書も亦女子が書翰のかきぶり、八拾壹題百四拾一章をつらねたる女子手跡の模範とすべきものなり。

賣捌所　東京神田表神保町六番地　女學雜誌社書店

文學界

新年初刊

第十三號目次

スミルナの花　禿木
變調論　秋骨
草枕　無名氏
春の光　秋香女
夕顔ぐるひ　破蓮
片羽の鴛鴦　孤蝶

時文

○淨瑠璃史
○美妙齋新脚本
○饒べ馬
○三躰詩評釋
○春陽堂新刊
○去歳のマドンナ

一月三十日發兌

毎月一回發兌○定價東京市内一冊六錢○市外郵税共一冊六錢五厘○廣告料一行一回拾錢○文學上有益の創作等は無代價にて廣告を引受く

東京神田表神保町六番地

文學界雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

本院今般岡山孤兒院に合併致候也

名古屋市白壁町

震災孤兒院

鈴木弘恭大人述

國文抄録 **文話** 全

實價金十七錢　郵税金四錢

鈴木弘恭先生編
多田親愛先生書

女子消息 **ゆきかひぶり** 全

實價金廿五錢　郵税金四錢

本邦女子の用文は或は高尚に過ぎ或は舊習に泥して甚煩はしきは當局者の常に憂ふる處なり著者夙に此に注目するありて今度此文を著するとなれり文意は固より簡易を旨とし都鄙通して行れ易き文躰を用ゐ四季雜部等の題數合せて百五十餘章尋常初學生より高等科女學生に適するやう勗めて秩序を失はず詞辭正しく綴られたれは婦女子必要の龜鑑なり

賣捌所

東京神田表神保町六番地

女學雜誌社書店

齒磨之大王

○品質最良芳香美粉なり

當時流行なる人造麝香入水おしろいにて美人となる至極適當の品なり

元祖

人造麝香入

定價金五錢

諸賣藥化粧品問屋

宮内省御用達

小町水本店

岳陽堂

東京馬喰町一丁目

平尾賛平

●電話六二五番●

全國中無限の取次所あり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

希臘孝子 腓立比物語

櫻井明石君譯

大形洋綴美製
定價金卅五錢
郵税金六錢

今を距ると六十年希臘國の勇士等、土耳其國の壓制に堪へずして義兵を擧げたりし時、一方の將となりたる、メサロスなるものの戰敗れて、其妻と共に奴隷に賣られて、遠くアラビヤのバグタッドへ連れ行れて、苦役に服しをり、其子腓立比其時六才なりしが、或人に養育せられて、十七才に至りたる時、土國より遣はされたる管領の危難を救ひしが緣となり、管領腓立比の至孝勇猛に感じて莫大の金を與へ、船を用意させて兩親を贖ひて出しやり、船中にて腓立比は船長の危難を一度助け、又船長の助言により腓立比基督信徒の身を以て、土國マホメット宗徒の假裝を爲して、單身にて隊商の群に加はり愈アラビヤの沙漠に乘り込み、沙漠中にて其基督教徒なると露見し殆ど生命も危かりしを、隊商の頭領其至孝と堅信とに感じて、大に腓立比を省みるに至り、後又隊商等がアラビヤのベドウイン族に剽掠せられ囚虜となりし時、腓立比も、亦囚人となり、爾後幾多の艱難變遷ありて、終に酋長腓立比の志に感じアラビヤの使見に護送させてバグダッドへゆるし遣り、バグダッドにて非常の困難に遭ひ大失望したりしも、圖らぬ助を得て遂に兩親を奴隷苦役の中より十二年目に茅出度救ひ出しぬ。

發行所 東京神田表神保町六番地 女學雜誌社書店

女學雜誌定價表

冊數	定價前金	市外定價郵税共
一冊	金六錢	金六錢五厘
十冊	金五十八錢	金六十三錢
廿六冊(半ヶ年分)	金一圓四十三錢	金一圓五十六錢
五十二冊(一ヶ年分)	金二圓六十錢	金二圓八十六錢

一本誌購讀者は代價郵税共凡て前金御拂込之事前金御拂込無之御注文有之候共一切送附不仕候

一本誌代價郵税共郵便小爲替にて拂渡局を必らず

一ツ橋郵便爲替取扱所へ宛御振込の事。

請取人は神田表神保町六番地女學雜誌社と御記入の事。郵便切手代用は一割增(五厘切手に限る)にて申受け候。

一本誌御注文の節は住所姓名を明瞭に記載し號數は何號より何冊分と詳細に御書添への事。

發賣所 東京市神田區表神保町六番地 女學雜誌社書店

明治廿六年四月廿五日內務省許可
明治廿七年二月十六日印刷
明治廿七年二月十七日發行

發行兼編輯者 東京市麴町區下六番町六番地 巖本善治
印刷者 仝 牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地 根岸高光
發行所 東京北豐島郡王子村下十條八百五十一番地 女學雜誌社
印刷所 仝 牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工塲 (電話十九番)

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY